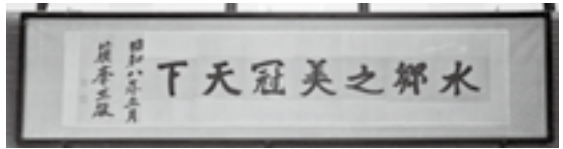


# 香取遺産

Vol. 37

## 「水郷観光の幕開け」 すいごうのび てんかにかんたり 水郷之美 冠天下

▶植物園に立てられている石碑



▲横利根閘門をでるさつき丸

▲佐原中央図書館に掛けられている額

水郷佐原水生植物園入口  
右側に、大きな石碑があります。揮毫したのは、歴史家評論家として著名な徳富蘇峰（小説家の徳富蘆花の兄）で、昭和8年に書かれました。現在その書は佐原中央図書館のロビーに展示してあります。

利根川に面した香取は、江戸時代から香取神宮、鹿島神宮、息栖神社などをめぐる観光地でした。

明治に入り蒸気船や鉄道で都心と結ばれると東京近郊にはない、与田浦の広い水面と広大な水田、入組んだ江間（エンマ）と呼ばれる水路は都会の人には珍しく、作家による紀行文や作品にも「水郷の舟遊び、銚子の磯遊び」などと取り上げられ、ますます人が集ま

るようになりました。

昭和2年、アンケートで日本八景を新たに選定するイベントが東京日日新聞社・大阪毎日新聞社主催により行われます。運動は全国で大々的に行われ、当地でも「水郷の利根保勝会」という団体が投票を呼びかけました。結果、40万票以上の票が集まり、八景には入らなかつたものの25勝として、全国に日本水郷の名が知れ渡ることとなりました。

昭和5年には、銚子と佐原間に水上飛行機による大利根遊覧飛行が香取の人により開始。昭和6年には、水郷汽船株式会社があやめ丸、さつき丸を就航しました。特にさつき丸は全長50m、総トン数155トンで、

浅喫水船あさきつすいせんとしては、当時国内最大のもので、一部3階建ての白い船体は水郷の女王と呼ぶにふさわしい容姿でした。昭和9年には、ラジオ放送でさつき丸船上から水郷の様子を全国放送もしました。

今回紹介した植物園にある碑は、昭和11年4月8日に開通した、筑波山を模した美しい曲線が特徴的な水郷大橋の架橋を記念して建てられたもので、かつては新島地区側の橋のたもとに建てられていました。

今まで船でしか行き来できなかったものが、橋の開通によりバスや車による観光に拍車がかかり、まさに水郷観光の黄金期を迎えることになりました。